

CASBEE 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西ノ京藤ノ木町計画	階数	地上7F
建設地	京都府中京区高/藤ノ木町12-5,17-4,18-1(一部)、中京区高/長月輪町1-1(一部)	構造	RC造
用途地域	工業地域、商業地域、2018年4月1日現在、住宅地域、商業地域、住宅地域(一部)	平均居住人員	138人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2018年4月1日
敷地面積	2,050.02 m ²	作成者	一般建築士事務所 株式会社 東洋設計事務所 森田 剛至
建築面積	799.87 m ²	確認日	
延床面積	4,493.29 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

環境品質 G

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 74%

③上記+②以外の 72%

④上記+ 72%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 周囲に調和した共同住宅としてデザイン等に配慮している。		1階住戸には専用駐車場や専用駐輪場などを設け、住人の利便性に配慮している。
Q1 室内環境 室内にはF☆☆☆☆の建築材料を全面的に使用し、窓・界壁・フローリング等で遮音性能に配慮している。	Q2 サービス性能 住宅性能評価の劣化対策等級 等級3を確保し建物躯体の耐用年数に配慮し、屋外露出部でステンレスダクトを使用することで空調換気ダクトの長寿命化を図っている。	Q3 室外環境 (敷地内) 地域に配慮してできるだけ緑地を設け、防犯カメラで防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー LED照明等を採用し、設備システムの効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 杭に高炉セメントの使用し、節水型大便器や節水水栓など節水に配慮している。	LR3 敷地外環境 光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満たしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される